
ユウキッ！

もこりん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ユウキッ！

【Nコード】

N3386Z

【作者名】

もこりん

【あらすじ】

家賃三万のアパートに住むどこにもいる普通のフリーターの青木瞳は日々、就職活動に精を出していた。

そんなある日、彼女の郵便ポストに入っていたのは怪しげな求人広告。

瞳は高い月給に目がくらみ、履歴書などを会社に送り、あっさり採用されてしまった。

数日後、その会社から告げられた仕事内容は「とある事情で家族と

共に暮らせなくなってしまった子供達をしっかりと社会に貢献出来るように育成させる」事だった。

瞳の前に現れた育成パートナーは幼い美少年だった。

彼女は彼をユウキと名付け、瞳とユウキの新たな生活が始まった。

part 1

” 35番 青木 瞳 あおきひとみ 不採用”・・・。

都内の家賃3万円のアパートに住むフリーターの青木 瞳に10回目の就職面接不採用の通知が送られて来た。

瞳はその紙をクシャクシャに丸めて思いきりごみ箱に投げ込んだ。
「なんでまた・・・」

瞳はそうつぶやくと、財布の入った鞆を持って隣にある中華料理店へ向かった。

瞳は店に入るなりカウンター席に座った。

「おじさん！ラーメンと餃子！」

必要以上に大声を出す瞳に動じることもなく、店の店長は「はいよっ」と優しく返事をしてくれた。

瞳が就職試験に落ちたときは決まってこの店に訪れ、同じ席に座り同じメニューを注文する。
かとう

そして、店長である加藤さんに愚痴を零しているのだ。

この日も加藤さんに愚痴をひとしきり言った後、注文していたラーメン等を食べて帰ろうとしていた。

「おや瞳ちゃん、もう帰るのかい？」

「うん。これからバイトあるし」

瞳は高校卒業と同時に家を飛び出して、高校の頃からバイトをしていたコンビニで働いて生計を立てていた。

だが、高校卒業から数年、26になった今でも就職をする事が出来ずにいたのだ。

開いた。

いつも通り、バイトを終えて家に帰ってきた瞳は、郵便ポストを
すると、何かの広告が瞳の足元に落ちた。

part 1 (後書き)

最後まで読んでいただきありがとうございました。

ヤプログというブログサイトにも同じ作品が掲載されているのでよろしければそちらも観覧ください。

part 2

瞳は足元に落ちた広告を拾いあげた。

- 求人募集 -

『簡単な仕事で沢山の収入を得たいアナタッ！我が社のプロジェクトに参加してみませんか？』

そう書かれている広告に瞳は目を輝かせた。

正直、胡散臭い見出しではあったが広告には『決して法を犯す仕事ではございません』と書かれていたし、月の給料も今のバイトとは比べものにはならない金額だった。

瞳は疑う事なくその広告の指示通りに履歴書とそのプロジェクトに参加したい旨を宛先に送ったのだった。

それから一週間がたったある日、瞳の元に例の会社から薄い封筒が送られて来た。

中を確かめると、その中に入っていた紙には『青木 瞳 採用』と書かれていた。

part 3

その紙を見た瞬間、瞳は訳がわからなくなってしまった。
まだ採用試験や面接などを何一つ受けていなかったからだ。

「そんなに人手が少ないのかな・・・」

そう考えていた瞳は封筒の中にもう一枚紙が入っているのに気がついた。

「何だろう・・・」

瞳はそう呟いてもう一枚の紙を封筒から取り出した。

『仕事の詳細は後日お知らせ致します』

その紙を読んで瞳は少々不安になった。

なんの試験も無くあっさり採用され、しかも仕事内容を全く伝えてくれないなんて不信過ぎる。

だがもはや瞳は後戻りする事が出来ないところまで来ていたのだ。
とりあえず瞳は詳細が送られてくるのを待つ事にした。

数日後、バイトを終えてアパートに戻って来た瞳は目を疑った。

彼女の部屋の前には、沢山の段ボールが積まれてあった。

「ど、どうなってるの!」

何が起こったのか理解出来ない瞳はとりあえず段ボールを部屋へ運ぼうと段ボールで塞がれていたドアを開けようとした。その時。

「遅かったな。待ってたぞ。!」

そう瞳に話しかける幼い少年の声が聞こえた。

part 4

「き、君は・・・？」

瞳は段ボールの一つに座っている少年に話しかけた。

「俺はお前の育成パートナーだ」

「い、育成パートナー？何それ？」

少年は瞳に紙を手渡した。

そこには『我社の仕事内容』と書かれていた。

我社ではとある事情で家族と共に暮らせなくなってしまった子供達をしつかりと社会に貢献出来るように育成させるのです。

青木様には、まず里親として彼に一般の知識を身につけさせていたいただきたいのです。

この説明の他に『養育費等は会社が負担する』などの事が書いてあった。

瞳は正直、今からでも断りたい気持ちだった。

まだ結婚もしていない身でこんな仕事を受ければ確実に婚期が遅れる。その他の理由からもこれから大変な事が起こるといっのは容易に想像出来た。

だがそんな瞳の考えとは裏腹に、少年は瞳が開けたドアから勝手に部屋へ入っていった。

「ちよつと君！」

瞳は彼を呼び止めたが、少年は聞く耳持たずだった。

そんな彼を見た瞳は「もう後戻りなんて出来ない」と感じ取った。

瞳は大きく深呼吸をした後、腹を括った。

「君、今日からよろしくねっ！」

瞳は少年に大声で言った。

「・・・しっかり頼む」

少年は足を止め瞳に振り返ってそれだけポツリというとき再び部屋を徘徊した。

こうして二人の凸凹生活が始まったのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3386z/>

ユウキッ！

2011年12月19日18時47分発行